■ Culture

ために周りから自分が被害者だと解釈されるのは誤解だと感じている。いことに、拒食症とルを貼られるのも、見当違いだと、気にない。まどかの好きあちゃんが「女の子から、体冷やしちゃ」と言うのも、悪意いだろうが、全く自関係のないセリフだている。

分の感情に正しさとを持たせる言葉を、それしか知らないの母の個人的な感情で、世間的にも、女そうあるべきなのだ大勢の人が言うこと略）あなた疲れてるのよとか、夢でも見たんじゃないのとか、それしか言えない」と小波は思う。もし自分がその立場にあったとしたら「お約束を破るところから、はじめてみようと」思う。

まどかも小波も、違う形で身体的現実と言語的現実の齟齬に対面している。一種の「時差」のようなものによって、異様に冴えた目で「お約束」で形成される社会を眺め、それぞれのやり方で、自分というものが一体全体どこにあるのか、読者を巻き込みながら問うてくるのである。

（翻訳家、カリフォルニア大ロサンゼルス校教授）

下座音楽の「詞章」を本に

歌舞伎保存会「芝居唄」刊行

伝統歌舞伎保存会（東京）は、歌舞伎の長唄などの下座音楽（舞台上ではなく、舞台下手の黒御簾の中で演奏される音楽）の「詞章」を集めた『芝居唄』（上下巻、別巻）を刊行した。歌舞伎の理解を深めるうえで、極めて貴重な書籍だ。

詞章は、芝居の効果を盛り上げる劇中音楽とも言える役割を果たすもの。今著は上巻に下座唄、下巻に独吟・めりやす、琴歌・琴歌様、謡、唄浄瑠璃、大薩摩、別巻で元禄芝居唄、芝居唄に関する解題を収めた。

かつて演劇研究者の郡司正勝・早大名誉教授（1913～98）を中心に調査され、一度は『江戸音曲大成（仮称）』の一巻として1983年に出版が計画された。だが作業が頓挫し、早大の研究室に資料が保管されたままになっていた。

2年前に改めて資料一式が見つかった。保存会は、①原稿がほぼ完全な形で残っていた②今後、同種の書籍は二度と出ないとみられる③これまで下座唄などの詞章は研究書であまり取り上げられなかった――ことなどから、刊行に至った。

今回の書籍は、研究機関向けの配布物だが、今年度中をメドに、市販する予定で作業を進めている。